

危機管理

「危機管理は、イマジネーションである」とは、阪神大震災のときに新聞紙上で目にした、どなたかの言葉である。まったく同感だったので、すぐにメモした。その言葉の意味を、ぼくなり考えた。

イマジネーションであるという意味は、最悪の状況を想像して備えよ、ということであろう。昔からの格言、「備えあれば、憂いなし」である。阪神大震災で、電気が止まる、水道が止まる、ガスが止まる、その後の生活は大混乱に陥った。そんな中で、平然と日常生活を送っていたのが、山ヤの連中だ。

電気が止まってもヘッドランプがある。水道が止まるとちょっと困るが、対策は後でゆっくり考えよう。ガスが止まってもガスコンロとガスカートリッジがある。ガラスの破片の上でもズカズカ歩けるトレッキングシューズがある。テントも寝袋もあって、寝泊まりに不安はない。災害時におけるアウトドアグッズの有効性が、大きな話題となった。アウトドアショップでは、テント・コンロなど、アウトドアグッズが品切れになるくらいに売れた、とか。

阪神大震災の教訓で、多くの家庭では食糧や水を備蓄した。しかし、忘れっぽい日本人は、数年も経たないうちに危機管理を忘れてしまう。喉元過ぎると熱さを忘れてしまうのだ。押入れの奥に備蓄されている食糧は、とうの昔に賞味期限切れになっている。

昨今、登山ブームと謂われる状況にある。一億二千万人総登山者化計画を提唱する岩崎としては、結構なことではあるのだが、一抹の不安がある。富士山に登り、高尾山に登る登山者の多くが、登山のリスクを認識していないように思える。ジーパンに運動靴、ビニールのレインコート、氷雨が降ったらどうする。危機管理がなくなってないように、思えてならないのだ。

さて、冬。情報が豊富だから、高尾山の延長線上のノリで、雪山に出ていく初心者が少なくない。昔は、っていう話しはしたくないのだが、昔は、安達太良山や北八・天狗岳に、六本爪の軽アイゼンとストックで登る奴なんていなかった。現在では、そっちの方が多数派。アイスバーンになっていたら、滑落したら、どうする。最悪の場合を想像できないから、天下泰平。六本爪軽アイゼンとストックで、平気でゴールデンウィークの唐松岳に登り、翌日五竜岳に向かうパーティーがあった。注意できない岩崎も情けない。こんなことを「山の遠足連絡帳」に書いたって、彼らが読むわけじゃないんだもの、負け犬の遠吠え、だね。

せめて、ぼくの声が届く仲間たち。無名山塾本科、遠足倶楽部、みどるの会、安心登山者養成講座受講生諸賢は、危機管理を胸に刻み付けて頂きたい。冬だけでなく、夏も危機管理を忘れてはならない。夏は、三点確保の習熟。トレーニングをしっかりとっておけば、安心して剣岳にも登れるってものだ。